

4校対抗OB戦

1993年9月26日 於：六甲学院グラウンド

▶六甲学院



JJHAF杯 四校OB対抗戦奮戦記

日本にはイエズス会系の男子校が、六甲、栄光、広島、^{なつせい}泰星と4校あり、その校長会でスポーツの交流が提案され、まず各校長が熱の入っているサッカー部OB会の試合が企画されました。

各校の中間に位置し、開学が一番古い六甲での第1回大会が決まり、あわてて準備委員会なるものを作り、大会の日程、グラウンドの確保、宿泊場所等の準備が始まったのが、今年の2月頃でした。しかし、4月に伯友会の50周年記念総会があり、5月に記念ゴルフ大会があり、仲々準備が進まぬままに夏を迎えました。折しも日本はJリーグが始まり、サッカー熱が冷夏をしのぎ、開催の日は刻々とせまり、各校の出場人数の不確定なまま夏が終わり、9月9日、鈴木会長、門田副会長、

市川先生等10名が集まり、最終打ち合わせを行いました。初めはいかに歓迎して親善試合を行うかと話し合っておりましたが、酔いが回るにつれて、「こりゃ何としても勝たんとかかん!!」という話になり、とうとうユニフォームまで新調する事になりました。

9月25日、大会の前日、東から栄光学園、西から広島学院が新幹線でやって来て、宿舎の新神戸駅前のワールド研修所に案内し、6時半から近くの『あこや亭』で曾根校長や伯友会理事数名を含めた約80名が参加し、前夜祭が盛大に行われました。最初は少し固い雰囲気気で始まった会も、そこは兄弟校のスポーツマン同士で、すぐ和気あいあいとなり、2次会の設営まで行われ、夜は更けていたのでありました。

大会当日の9月26日は、絶好のスポーツ日和となり、各チーム総当たり戦で3試合を行い、結果は前夜祭の後、

2次会に行かずに体調を整えた広島が優勝し、夜の神戸の街を知ってしまった栄光が2位となり、準備、接待づかれした六甲が3位となりました。成績は兎も角として、好ゲームを展開したお互いを称え合い、再会を期して閉会となりました。

戦いすんで日が暮れて、何か不都合がなかったかと思っておりましたが、数日後両校よりお礼の手紙が届き、設営の全てに感激され、そして文章の最後に、来年もまた六甲でやりたいとの事、嬉しかったり、しんどかったり……。

しかし、鈴木会長に寄贈していただいた新ユニフォームで白星を飾るまではやめる訳にはいかず、まあ来年は夏にでも合宿して「ヒルケルを強化しないと」などと思っております。

六蹴会諸氏のご協力をよろしくお願ひします。

23期 湯川 昌明



左から27期 浜田、23期 湯川、栄光学園 鈴木、広島学院 山根





六蹴会50周年記念 おめでとう御座居ます

「ラモスが舞い、カズが刺し」というあの六甲グラウンドでの楽しくもしんどい1日より早1ヶ月以上がたちました。フェアなプレー、合間のビール、そして六甲晴れという最高の状況での親善試合もゲームを消化するうちに段々熱が入り、スタンドの声援も最初の遠慮がちのものから叱咤激励、そしてレフェリーへのプーイングさえ出て白熱の第1回 JJHAF 杯でした。

一番兄貴分の六甲さんらしく、60才代の方の出場まであり、弟分の学院としてはいつまでもお元気で参加して頂きたいと祈念致しますとともに、われわれも是非あの頃までボールを蹴っていたと思った次第です。

当方のOB会について少々述べさせて頂きますと、広島学院の卒業生が約5500人、そのうちサッカー一部のOBがほぼ500人、多分今回参加した3校の中ではもっとも小所帯ではないかと思

います。主な活動は正月3日の初蹴り、盆のさなかの耐熱杯といったものですが、初蹴りも年々参加者が増え100名を超えてきましたので、正規のサッカーグラウンドが一面しかない学院では、正月は年長者優先、そして夏は若手優先と振り分けてゲームを行い、持ち寄りの賞品を配布しております。

正月にはグラウンドの脇におでん、ぜんざい、アルコールのテントが出店します。責任期を決め、奥さん、婚約者 etc 共々朝から用意をし、それを皆がパクつき喉を潤します。

ラッシュ校長も毎年顔を出され、たまにはおでんも付き合われたうえで、いつも同じ言葉をおっしゃいます。「今年のおでんが一番おいしいよ」

最後になりましたが、JJHAF 杯では本当にお世話になりました。宿泊から会食、そしてゲーム終了後のミーティング、いたれりつくせりのおもてなしを心より感謝致します。

あの真ん丸いボールを同じように蹴

ったということだけで10年来の知己のごとく親しくなれるサッカーに感謝し、姉妹校の卒業生であるという以上に深い絆を感じさせてくれる蹴友たちにエールを送ります。

「フレイフレイ六甲 フレイフレイ六蹴会」

広島学院サッカー部 OB 会会長
山根 昇



六甲サッカー部 50周年に寄せて

六甲サッカー部50周年まことにおめでとうございます。

六甲サッカー部の素晴らしさは、折しも開催された9月26日のJJHAF杯4校OBサッカー対抗戦においてしっかりと認識させていただきました。

我が同窓会沼田会長よりJJHAF杯のお話を聞いた時は、我々にはまさに青天の霹靂ともいべき状況であったため、当初より気合いのはいっていた六甲・広島と異なり、実は参加自体も危ぶまれるというのが正直なところでした。

しかし、六甲の皆様の熱心なお誘いと、Jリーグ開幕に刺激されたのか、当会では年寄りの部類の50歳前後のメンバーの年甲斐もない“ノリ”（因みに、当日公式戦における栄光の得点は、すべてこのメンバーがたたき出しており、サッカーはやはり気合いが大事と再認識）によって、学生OBも含め総

勢28名の参加を見ることができ、はるばる横浜からの“遠征”が実現したわけでありませう。

神戸に着いて案内されたのは、ホテルのような立派な宿舎。

前夜懇親会においては、若く美しいコンパニオン？までご用意（当会学生OBは驚喜）され、長森理事長・鈴木六蹴会会長・湯川理事・浜田理事をはじめとする六蹴会の皆様の至れり尽くせりのご接待。

我々は度肝を抜かれつつ神戸の夜を満喫したのであります。

げんに翌日の試合のことはそっちのけで、「JJHAF杯第一回というからには今後主催校は輪番だろう。次がウチの順番になったらどうしよう」

「とてもこんな準備・接待はできるものではない」

と話しあったものです。

肝心のJJHAF杯は前夜の自信満々たる様子もむべなるかな、実力どおり広島の手。そして我が栄光は、前夜

の協定も破り、なりふりかまわず学生OBをつぎこみ、これを失って見逃してくださった六甲の温情に救われて2位となり、なんとか横浜からの新幹線代に見合う戦果を挙げ得たのであります。

公式戦終了後もエンドレスのように試合は続き、さすがの我が学生OBもクタクタになるほどのサッカー漬け。旧知のなかのように和気藹々となった表彰式まで2日間、六蹴会の皆様に“サッカーと神戸と友情”をたっぷり堪能させていただきました。心よりお礼を申し上げる次第です。

終わりに、六蹴会のますますのご発展をお祈り申し上げるとともに、兄弟校4校の友情の輪がさらに大きく広がるよう長兄として今後とも強力なリードをお願いいたします。

栄光学園サッカー部OB会
幹事長 鈴木久仁